

◆帆苺謙治委員 おはようございます。今、説明のあった水稻晩生新品種について、わが自由民主党の幹事長からも代表質問があったと思いますが、平成27年度から試験的にやると。平成29年度から一般販売するということになっておりますが、大体、新品種は、わせだったり、晩生があったりすると。この水稻晩生新品種というのは、どの程度、期間を置くといいますか、収穫時期はどのくらいになるのでしょうか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 平成29年度に一般販売を目指しております晩生新品種の成熟期ですけれども、コシヒカリに比べて1週間程度遅いと想定しております。

◆帆苺謙治委員 そうすると、わせと晩生といいますか、刈り取りの期間というのはどの程度あるのですか。1か月はないのでしょうか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) わせと平成29年度に一般販売する晩生新品種との作業時期の幅ですけれども、わせ品種のこしいぶき等からスタートを切りますと、大体、2週間から20日程度ではないかと思えますし、極わせを加えれば、さらに作業時期が広がると見ております。

◆帆苺謙治委員 長ければ長いほど、農家も助かるということなので、1週間程度なのかと思ったところでもございます。いずれにしても、1か月内くらいに刈り取りは終わるということなのです。これは、試験的には作ったのでしょうか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 平成24年度から3年間、現地で試作を繰り返してまいりました。

◆帆苺謙治委員 食べてみましたか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 平成24年度、平成25年度と幾つかの品種、それから平成26年度は二つの品種に絞り込んでおりまして、今、最終的にどちらの品種にするかを選定しておりますけれども、試食は私どもでしております。

◆帆苺謙治委員 個人差はあるのでしょうかけれども、味はどういったものなのか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 最終的に絞り込んでいく過程の中でございますけれども、どのように申し上げていいのかわかりませんが、食べてみておいしいということは言えるかと思っております。

◆帆苧謙治委員 おいしいのでしょうか。だけれども、これは例えば、飼料用米であれば幾らでも取れるものを作るのだらうし、コシヒカリや越路早生などいろいろな品種があると思うのですが、収量はどうなのですか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 晩生新品種の収量ですけれども、現在、想定して選定している品種につきましては、コシヒカリ並みの収量と見込んでおります。

◆帆苧謙治委員 それとネーミングも話題になっていましたよね。そういう検討チームといいますか、だれかに任せるとか、そういう手法でやっていくのですか。それとも、ハイカラなどという言葉は、はやらないかもしれないけれども、そういうものもいいような話も聞いていますし、目黒農林水産部長もけっこう長くなりました。こういったことを言うと、またおかしな話ですけれども、目黒1号とか、千早1号とか、そういう斬新(ざんしん)な名前といいますか、どういう検討方法で決めるつもりなのですか。

◎渡辺広治技監(農林水産部) 晩生新品種の名称ですけれども、小野議員の代表質問にも知事が答弁されましたような、語感や文字の意味や斬新さということも含めて、さらには輸出等も視野に入れて、主要言語でのネガティブチェックをしていきながら、部内のプロジェクトチームで素案を立てて、専門家のかたの意見等を聞きながら、今後、どのようにして決めていくかということは、検討してまいりたいと考えております。

◆帆苧謙治委員 分かりました。もう一つ、今、私が高校生くらいのときは年間大体2俵の米を食べたのです。今は1俵を切っている中で、米余りになっていると。だけれども、それによって米価が下落すると、その対策で、飼料用米を作るとか、あるいは外国に売るといふ手法があると思うのですが、具体的といいますか、今、言ったほかにもいっぱいあるのでしょうか。あるいは飼料用米はどの程度できるのか、出せるのか、その辺をお聞かせください。

◎小幡武志農産園芸課長 今後の米対策ということでございますが、米価下落の中では、やはり主食用米を絞っていかないと、なかなか価格が維持、回復していかないという状況でございますので、平成27年度、県内で飼料用米は3万トン程度の生産を目指して、今、取り組んでいるところでございます。また、将来的な部分も含めれば、多様なニーズにきちんとこたえていって、太いパイプを作っ

ていくということが大事だと思っておりますので、そういった取組も進めていきたいと思っております。

◆帆苅謙治委員 生産して、余れば米価が下落するのは当然です。ちょうどいいように米を作って、結局、農地が余るわけです。そうすると飼料用米を作る。先ほども言いましたが、外国に売ると。それでもまだはつきり言って余ります。その際に、農地集積を増しながら、コスト低減を図るのは当然。その余ったところに野菜やいろいろな手法があるでしょう。そして、例えば、ビニールハウスを作るというような補助制度も充実しているわけでしょう。その辺を少し教えていただけますか。

◎小幡武志農産園芸課長 今ほど、委員から御指摘がございましたとおり、水田フル活用の中で、非主食用米、主食用米を組み合わせることで所得を確保していくということは当然でございますけれども、それと併せまして、やはり園芸との複合経営というものを進めていく必要があると思っております。そういう面では、園芸に関しては、施設化等につきましても、支援事業を用意しておりますし、特に新年度の、水田を高度に利用した園芸振興に向けた新たな事業につきましても、当初予算案でお諮りしているところでございます。

◆帆苅謙治委員 それで専業として農家が成り立つ、いわゆる産業として成り立つ農家というのは、常に知事が言っておりますけれども、そういうことでクリアできますでしょうか。あるいは国の政策で今、民主党がやった直接補償ではなくて、担い手に対する補助制度、担い手に特化してやるような政策も出ているようではありますが、その辺も少し教えてください。

◎小幡武志農産園芸課長 他産業並みの所得を維持できるということについてでございます。私どもは、将来的に本県農業の担い手が経営を維持して、次世代にもつなげていくということになれば、当然のことながら他産業並みの 400 万円、500 万円くらいの所得を上げられるような農業経営を目指していただけるように支援してまいりたいと思っておりますし、今般の米価下落につきましても、国からもさまざまな手当てがされております。特に、コスト低減に向けて努力する農業者に対して、稲作農業の体質強化緊急対策事業等も措置されているところでございます。

◆帆苅謙治委員 畜産課長、県内で乳牛や豚などいろいろ飼われておりますけれども、例えば、飼料用米はこの牛には2割与えられますよとか、3割がいいですよとか、1割しかやれませんよとか、そういうものがあると思います。トータルして飼料用米を作った場合、どの程度、供給できるのですか。例えば、新潟県内

の 100 ある内の 1 割は飼料用米を使いますとか、そういう数字はないですか。

◎石田司畜産課長 飼料用米がどのくらい畜産サイドで使えるかということかと思えます。国が家畜の種類ごとに試算しておりますものを、県の家畜の頭羽数に当てはめてみますと、潜在需要量は県内で約 6 万トンという数字が出ております。平成 27 年度は、先ほど、3 万トンを目指すという話がございましたけれども、作っても、畜産の需要はまだあるかというところでございます。

◆帆苅謙治委員 県内の米といいますか、農地面積はどのくらいですか。何割くらいかと言いましたが、6 万トンというのはどの程度なのですか。

◎石田司畜産課長 約 6 万トンを作るには、米の作られている面積の約 1 割に相当すると思えます。

◆帆苅謙治委員 1 割であれば、相当の足しになりますよね。県内のそういう畜産農家の動きがどうなっているのかと。米そのものをすぐに食べさせられないわけでしょう。粉碎するとか、破砕するとか、そういうことをしないと、食べさせられないというような話も聞いております。したがって、そういう破砕機などは、農家 1 戸で買えるような金額なのか。あるいは今までの補助率が、例えば、前は 3 割だったような気がするのですが、今後、どのような対応をしていくのか。その辺を教えてください。

◎石田司畜産課長 米を食べさせるには、鶏であれば、破砕しなくても、そのまま食べさせられますけれども、牛、豚でありますと破砕が必要だということで、今、取り組まれている皆さんがたは、もちろん破砕機を持っております。昨年秋に緊急対策ということで、補助率が 3 割だったものを 2 分の 1 にということで、共同利用であればそのまま購入補助もありますし、個人であればリースで導入できるということで、今、補助率が上がったというところでございます。

◆帆苅謙治委員 大きいものも、小さいものもあるのでしょうか、何段階くらいあって、幾らくらいするのですか。

◎石田司畜産課長 個人で入れられているかたは、安いものであれば、米破砕専用ということでもなくて、二、三十万円くらいの機械がありますし、共同で、ある程度大量に粉碎するという機械だと二、三百万円というような機械がございます。

◆帆苅謙治委員 分かりました。畜産についてもう少し聞きます。今、飼料がず

っと高止まりでいると。上昇傾向にあるということですが、ということはもうからないということです。だけれども、最近の畜産物価格は、割合、堅調に推移しているということも聞いております。ところで、このところの畜産経営、具体的に今の収益性を含めて現況がどうなっているのか教えてください。

◎石田司畜産課長 最近の畜産の収益性ということでございますけれども、今ほど、話のありましたように、飼料価格が高水準で推移している、高止まりということで、ここ3年ほどで2割程度の上昇と。飼料費は生産コストの約半分を占めていますので、生産コスト全体では1割アップというような状況になっているわけですが、一方で畜産物の卸売価格が非常に堅調に推移しているということで、これもここ3年くらいで牛肉、鶏卵では約2割、豚肉に至っては約3割ほど上昇しております。また、乳価につきましても、平成25年10月に5円アップしたというような状況がございまして、これも含めて、いずれの畜種においても改善基調で推移しているという状況でございます。ただ、個々の畜産経営を見ますと、繁殖がうまくいかないとか、病気が出るとか、そういうこともありまして、個々には生産性を向上しなければならないというものもございまして、これらにつきましても、個別に指導、支援してまいりたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 畜産経営は何をすればもうかるかということでは、やはり安価な飼料といいますか、半分かかるものを4割、3割と低減することしかないわけです。したがって、対策としては畜産農家として、先ほど申し上げましたように、飼料用米も一つあります。だけれども、飼料用米も輸入してくるとうもろこし等と比べて高ければ何にもならないので、その辺のコストの低減といいますか、飼料費を低減するための取組はどのように考えていますか。

◎石田司畜産課長 輸入飼料の相場というのは外部要因によるということで、どうにもならない部分でございます。したがって、経営体質を強化するためには、生産性向上、コストの低減が重要になってくるわけでございますけれども、今、やれること、やるべきことが飼料用米の活用ということになろうかと思えます。実際に、飼料コストを1割、2割低減している取組もございまして、これらは県内各地の畜産農家が見に行ったりもしております。そういうものを参考にしながら、飼料コストの低減を図るということと、先ほど言いましたように、繁殖がうまくいかないとか、病気が出るとか、そういうものはありますので、まだまだ生産性向上の余地、伸びしろは畜産農家にあるというように考えておりますので、その辺はそれぞれ問題を解決していけるように、取り組んでいきたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 飼料用米を作ると、国の補助金などもあったでしょうか。それ

と農地がどうしても余っているということになると、昔みたいに牧草を作るとか、そういう手法はコスト面でどうなのですか。

◎石田司畜産課長 国の交付金で米生産者側にそれなりの手当てがされているおかげで、畜産サイドに手ごろな価格で供給いただけるというようなことでございます。

それから、牧草や飼料作物をもっと作れないかということにつきましては、これもなかなか畜産農家側での労働力やそういう問題もありますので、そういう面につきましても、耕畜連携で進めていければと考えております。

◎小幡武志農産園芸課長 飼料用米に対する支援の関係で、もう少し補足させていただきますと、数量払いになりまして、最大で10アール当たり10万5,000円の助成金になります。併せまして、多収性品種の新潟次郎等を使いますと、それに10アール当たり1万2,000円が足されます。さらに言いますと、その飼料用米のわらを畜産農家にお渡しして、代わりに堆肥(たいひ)を頂いて投入する、耕畜連携の取組をいたしますと10アール当たり1万3,000円がつきますので、トータルでは10アール当たり13万円になります。

◆帆苅謙治委員 私が勉強不足なのかもしれませんが、やはり酪農家、畜産農家にそういう周知徹底といいますか、何とか飼料コストを下げていく方法を考えていただければありがたいと。いい制度もあるようなので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一つ聞かせてください。越後杉ブランド認証材ということですのでずっと推進を図ってきております。消費税がアップしたということで、駆け込み需要の反動減も出て大変だったという話も聞いております。この消費税の引き上げに伴う反動減によって、住宅建設の影響は大きいと思ひておりますが、こうした中で、ふるさと越後の家づくり事業の本年度の応募状況がどうなっているか教えてください。

◎腰越啓司林政課長 ふるさと越後の家づくり事業の今年度の応募状況についてでございますけれども、1月末の時点で575件ありまして、委員が先ほど言われましたように、消費税増税前の駆け込み需要がありました昨年が721件。それには及びませんけれども、一昨年の同時期には552件ありまして、それよりも4ポイント程度、上回っている状況となっております。

◆帆苅謙治委員 今年度は大体これで終わったということですか。まだあるのですか。

◎腰越啓司林政課長 今、3月中旬ですけれども、3月末までございます。まだ、

増える予想をしております。

◆帆苅謙治委員 こういう地域資源である越後杉を使う中で、はっきり言って、こういうものを確立していく必要があると考えるわけでございます。そのためには、需要をしっかりと確保していくことが肝要であります。ついては、越後杉の需要を確保するため、県として、あるいは林政課として、今後どういう取組をしていけますか。

◎腰越啓司林政課長 越後杉の需要の確保に向けた取組についてでございます。木材の最大の需要先であります住宅分野に働きかけをするということで、今ほど、話がありました、越後杉住宅の建設の支援を進めたいということでございます。加えまして、素材の生産業者から製材業者、そして大工、工務店等の業者までをメンバーとする、県産材の家づくりグループがありまして、その活動にも支援するという事を考えております。また、住宅関係の情報紙に広告等を掲載するなどのPR活動に対しても支援して、越後杉の需要の確保に努めてまいりたいと考えております。また、大工、工務店等の要望に迅速に対応するために、これまで整備してきましたストックヤードの活用を通じまして、越後杉の即納体制の強化を進めてまいりたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 逆行するような話をするようで申し訳ないのですが、越後杉というのは、はっきり言ってけっこう高いです。ある程度、越後杉を何割か使わないと補助金が出ないわけでしょう。だから、条件を緩和して、プラス県産材を使った場合はどうかというような話もたまに聞くのです。したがって、越後杉をブランド品として売り出しているのは分かるけれども、条件を少し下げて、ほかの県産材を使ってもいいよというような考えも、今後、必要なのではないかという思いもしますが、検討の余地はないですか。

◎腰越啓司林政課長 越後杉ブランド認証材を使った住宅だけに支援するのではなくて、ほかの県産材を使った住宅にも支援したらどうかという御提案でございますけれども、まず、このふるさと越後の家づくり事業で、越後杉ブランド認証材を使うということは、県産材の品質性能がきちんとしたものであるということを経営者のかたがたから分かってもらいたい。変な木材が行きますと、これは使えないということになりますので、そういった意味で、越後杉ブランド認証材を使ったところに支援していることがございます。また、この事業以外で、越後のふるさと木づかい事業があります。これは公共的な施設に越後杉ブランド認証材をメインに使ったところに支援するものですが、外構等については越後杉ブランド認証材だけではなくて、県産材を含めて、一定以上使った場合に支援するというような補助の内容にもなっております。越後杉ブランド認証材以外の県

産材を使つての補助につきて、いろいろな状況を見まして、必要かどうかといふところを、少し研究してみる必要はあろうかと思つております。

◆帆苧謙治委員 ぜひ、みんないい材料を使つてやりたいのは当然でありますし、新築する若い人は大勢いますので、そういうかたがたにも県産材を使つてもらふのは当然ですけれども、越後杉ブランド認証材の使用条件を少し下げて支援するなどについて、検討していただきたいと要望して、終わります。